

2025 年 3 月 9 日 上田 勉

能登半島地震や集中豪雨が、さらに衰退を加速する輪島駅前（石川県輪島市）

3 月 6 日～9 日まで、能登半島地震の被災地を周ってきました。大人の休日倶楽部の北陸フリー切符（24,000 円）を使いました。上野駅から金沢駅往復は北陸新幹線を、金沢駅から穴水駅往復は、JR 七尾線と「のと鉄道」を使いました。宿泊は金沢駅東の東横インで 3 泊しました。私は歩くのが不自由なので、穴水駅を起点として路線バスで、能登町・珠洲市・輪島市・七尾市・和倉温泉の被災地を車窓から見物しました。また、氷見市も見学しました。どこでも、仮復旧でガタガタな道路も多くありました。建物も壊れていたり、屋根や壁にブルーシートが敷かれている家もあります。

能登町・珠洲市・七尾市・和倉温泉は、震災前のように、町の中心地は片付いています。しかし、私が一番ショックを受けたのは、輪島駅前でした。駅の鉄道やホームは昔のままです。道路の歩道のブロックやインターロッキングは、地震で壊れたままです。駅周辺の建物のいくつかは、ブルーシートで覆われています。修繕の工事をしている建物もあります。所々更地になっている場所は、多分解体した後だと思えます。1 月 1 日の能登半島地震と 9 月 27 日の集中豪雨から約 1 年 2 カ月が経つのに、ほとんど復興は進んでいないみたいです。

輪島市門前（黒島）は、江戸時代には北前船で大いに賑わいました。「角海家」などの廻船問屋の建物が今も残っています。

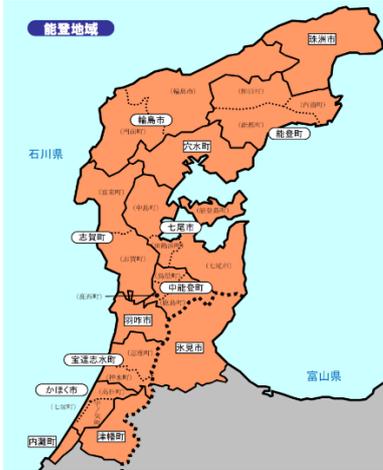
輪島市は、朝市や「輪島塗」で、能登半島の中心でした。私が何十年か前に輪島に来たときは、観光客で賑わっていました。「日本三大朝市」の一つといわれる「輪島朝市」は地元の庶民の朝市から、観光朝市になって、大いに賑わいました。しかし、今は駅前には人通りはほとんどありません。

JR 七尾線—旧国鉄から第三セクター「のと鉄道」に、その後穴水⇄輪島区間が廃線に
輪島駅前が衰頹したのは、能登半島地震だけではないと思えます。

旧国鉄の時代には、JR 七尾線は、金沢駅から輪島駅まで走っていました。それが 1991 年に、民間の「のと鉄道」に譲渡されました。その後 2001 年には、穴水駅と輪島駅間が廃線になりました。

現在は、金沢駅⇄輪島駅間で、北陸鉄道の特急バスが 1 日 4 往復しているだけです。バスの利用者の多くは、途中の「のと山里空港」で降ります。私が乗ったバスで、輪島駅まで行く乗客はほとんどいませんでした。車社会の中で、鉄道やバスで輪島へ行くのは結構大変です。また、奥能登には宿施設も少なく、ボランティアをするにも大変です。

朝市の街区は火事で焼けました。復興には数年がかかると思えます。また、子ども達が帰って来なければ、高齢者にとって、家を建て直すことは並大抵ではありません。復興住宅が終の棲家になる人も多いでしょう。



【能登地域 地図】



【のと鉄道の本社？（輪島駅前）】（2025年3月8日撮影）



【歩車道の縁石は壊れて、歩道は砂利のまま（輪島駅前）】（2025年3月9日撮影）